学校番号	２１３

平成３１年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校倫理　新訂版」　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

倫理の目的は、自己の生き方について考えることである。授業としての倫理はこの１年で終わるが、自己の生き方については生涯問い続けなければならない。そのための練習の１年として、さまざまなことについて深く考えて欲しい。また、身の回りに起こる出来事やニュースなどを通じて、社会の動きに関心を持ってほしい。

2　学習の到達目標

・倫理とは何かについて考えることができる。
・倫理を学ぶ意味について考えることができる。
・人間性の特質について理解する。
・青年期と青年期の課題について理解する。
・古代ギリシアの倫理思想の基本を理解する。
・キリスト教、イスラム教、仏教の教えの基本を理解する。
・近代ヨーロッパの代表的な思想の基本を理解する。
・自己の倫理について考えることができるための基礎を形成する

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。
評価方法	授業観察 発問発表 提出課題 ノート提出	発問発表 提出課題 定期考査	提出課題 ノート提出 定期考査	発問発表 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1学期	青年期の課題と自己形成	第１節青年期の意義 1人間とは何か 2青年期とは何か 第2節　青年期の課題 1自立への課題 2自己形成の課題	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○	a:青年期の意義と課題に対する関心を高め、それを意欲的に探究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。芸術家の人生と作品を手掛かりとして、青年期の意義と自己の在り方生き方について考えようとしている。 b:自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見いだし、それに基づいて青年期の意義と課題を多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究するとともに、他者と共に生きる自己の生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、課題を追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している c:自らの体験や悩みを踏まえて、青年期の意義と課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、豊かな自己形成に向けた学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 d:青年期の不安や性格適性に関する悩みなどが、生きる主体としての自己確立の過程に共通する問題であり、人生観、世界観、価値観の形成が必要であることを理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	授業観察 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	人間としての自覚	第１節ギリシア思想 1自然哲学とソフィスト 2ソクラテス 3プラトン 4アリストテレス 5ヘレニズム時代の思想 第2節キリスト教 1古代ユダヤ教 2イエス 3キリスト教の誕生と展開 第3節イスラーム 第4節仏教 1仏教以前のインド思想 2ブッダの教え 3大乗仏教の成立 第5節中国思想 1「道」の自覚-孔子 2儒家思想の展開 3老荘思想 第6節芸術と人生	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

2学期	日本人としての自覚	第1節古代日本人の思想 1日本の風土と人々の生活 2神との関わりと道徳観 第2節日本の仏教思想 1仏教の受容 2仏教の日本的展開−鎌倉仏教 3仏教と日本文化 第3節近世日本の思想 1儒教の受容と朱子学 2日本陽明学 3日本的儒学の形成 4国学の形成 5民衆の思想 6幕末の思想 第4節西洋思想の受容と展開 1啓蒙思想と自由民権運動 2キリスト教の受容 3国家主義の台頭と社会主義 4近代的自我の確立 5近代日本哲学の成立と超国家主義 6伝統の自覚と新たな課題	 ○

	現代の諸課題と倫理	第3節民主社会と自由の表現					a:現代の諸事象における倫理的課題から、関心のある問題を積極的に選択し、自己の課題とつなげて意欲的に追究している。現代に生きる人間としての在り方生き方について考え、倫理的諸課題に進んで取り組もうとしている。 b:自然と人間とのかかわり（生命倫理、環境倫理）、社会生活と自己とのかかわり（家族・社会、情報化）、国際社会と自己とのかかわり（異文化理解、国際平和）などの視点から、現代の倫理的諸課題を、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、課題を追究し考察した過程や結果を、レポートにまとめ、発表や討論などを通して適切に表現している。 c:現代の倫理的諸課題に関する諸資料をインターネットなどの様々なメディアを通して収集し、自己の課題とつなげて追究する学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 d:今日の生命倫理または環境倫理の問題について、家族や地域社会の在り方または情報社会の在り方について、異文化の尊重または国際平和について、それぞれ現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を、自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	授業観察 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		1民主社会の形成-社会契約説		○	○	○		
		2人格の尊厳―カント	○	○		○		
		3人倫―ヘーゲル	○	○		○		
		第4節社会と個人						
		1個人と社会との調和		○		○		
		2社会の進歩と改善		○		○		
		3社会の変革－社会主義		○		○		
		4主体性の自覚	○			○		
		第5節人間への新たな問い						
		1理性の深層への反省		○		○		
		2言葉への反省		○		○		
		3理性の働きへの反省		○		○		
		4異質なものへのまなざし		○		○		
		第6節社会参加と幸福						
		1生命への畏敬と非暴力の思想	○			○		
		2正義と福祉		○		○		
		3社会の中の人間		○		○		
3学期		第1節生命の倫理	○	○		○		授業態度 発問発表 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		第2節環境の倫理	○	○		○		
		第3節家族の倫理	○	○		○		
		第4節地域社会の課題		○		○		
		第5節高度情報化社会の課題		○		○		
		第6節文化と宗教の課題		○		○		
		第7節国際平和と人類の福祉の課題		○		○		

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。